もひとつおまけ　不曲

む學で居ながら博識ぶつて去やべる書生のきいたふう

見立六歌仙　小さん

喜撰こそつてよむ新聞紙康む秀さへまちかねる

業も平けりや智識もひらけ、道もひらける小町幅

遍照金剛いふのぢやあいぐ、黒うそるのも主のため

正誤○前号二丁ウ第二行千秋庵ハ堂、同七行とり違へのちハた四丁オ庭のわハは六丁ウ第一行傍のわハは同第二行我のたハれ同第十一行貴人のはハに七丁ウ第六行棄奔羮のはハにの誤也こゝに追正を

○廣告

詩歌連俳琴碁書畫小集　三月十八日於中村樓上　會主　松の門三卿子

風雅新聞第十三号　明治十年三月十日發兌

○　葛飾　結城光昭

往し年函嶺に浴せしをり堂が島の夢想國師に詣けるに側に國師並京極黄門公の歌を彫付たる石あり此石中央より割れて叢に埋れたりき、其後如何なりつらんと追想せらるゝに今記臆のまゝを記して贈る

夢想國師

世中をいとふともなき住ひにてなか〳〵安き山賤の庵

京極黄門

去のべ人いとほの苔の跡とめて其古言に添ふる言の葉

右　光昭

これが返しとにいあらねど

去のぶれと更ゑ何をか岩根はふ苔のみどりの淺き心よ

風雅新聞　イ8-415
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library